

最優秀賞（小学生高学年の部）

「かもしれない」という心がけ

明治学園小学校 5年 野入 桃子

「ドン！」という大きな音で車にしょうげきが走った時、何が起こったのかわからなかった。母が運転する車に、別の車がぶつかってきたのだ。相手の車が駐車場から一般道路に出る時に、母の車を見落としたりしい。

事故が起こったのは、小学校の近くの道路。コンビニもあり、交通量も多い。下校中の子ども達もよく通る道だ。母は常日頃、この道を通るたびに「あぶない」と思うことがあったと言う。だから減速して、注意をはらって運転をしていた。それなのに事故は起きてしまった。母の車は大きい。停車中のこんな大きな車を見落とすのだから、歩行者を見落とす可能性は非常に高い。想像したら、私は背筋が凍った気がした。

なぜ事故は起きるのだろうか。母と話をした。交通ルールを守っているつもりでも、守れていない人がいる。車間距離が十分でない人、スピードを出し過ぎる人。だからこそ「かもしれない」という心がけを持つことが重要だ。

子どもが飛び出してくる「かもしれない」

前の車が急に止まる「かもしれない」

そんな風に考えて行動が出来れば、交通事故を少しでもへらすことが出来るのではないだろうか。そしてこの心がけは、私達子どもにも必要なことなのだ。

車が一時停止しない「かもしれない」

歩行者を見落とす「かもしれない」

そんな風に危険を予測しながら行動することが出来れば、危険を回ひする対応も出来る。交通をより安全なものにするためには、「かもしれない」という心がけを持って、おたがいを思いやることが大切だ。そしてこれは、交通安全に限ったことではない。思いやりのある行動は、誰もが心地の良い住みよい社会づくりにつながっていくはず。命はひとつ。大切な命を交通安全で守ろう！